

## クワシロカイガラムシのふ化最盛期は4月30日頃です！！

本年のキウイフルーツにおけるクワシロカイガラムシのふ化最盛期は、4月30日頃で平年より早くなると予測されます。本種は幼虫期が最も防除しやすく、この時期を逃すと防除効果が低下します。栽培圃場で寄生を確認した場合は、防除適期を逃さないよう速やかに防除を実施してください。

## ●クワシロカイガラムシについて

本県でキウイフルーツを加害するカイガラムシ類の主な種は、クワシロカイガラムシです。雌成虫は枝幹部に寄生して越冬します（図1）。

越冬世代の雌成虫は介殻に覆われているため、薬剤による防除効果は低くなります。一方、ふ化直後の1齢幼虫は薬剤が効きやすく、例年4月下旬頃から第1世代幼虫の発生が始まります。防除適期は、1齢幼虫のふ化最盛期から2～5日後までです。この時期を逃すと、防除効果は低下します。



図1 結果母枝に発生した幼虫（赤丸）と成虫（赤矢印）

## ●今後の発生予想

- (1) 本年の有効積算温度を利用したクワシロカイガラムシの第1世代幼虫のふ化最盛期の予測日は、**4月30日**です（表1）。
- (2) 「さぬきエンジェルスイート」の開花初期とクワシロカイガラムシ第1世代幼虫の発生時期はおおむね一致するため、防除適期の簡易な判断指標として有効です（表2）。

●防除対策

- (1) 防除は第1世代幼虫のふ化最盛期から2～5日後までに実施してください。
- (2) アプロード水和剤及びトランスフォームフロアブルのふ化前散布試験では、ふ化約14日前からの散布でも防除効果が確認されています。適期防除が難しい場合でも、4月下旬を目安に薬剤を散布してください。
- (3) 防除薬剤は、主要作物病害虫・雑草防除指針(表3)、香川県監修の果樹病害虫防除暦を参考にしてください。
- (4) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避けてください。

表1 クワシロカイガラムシ第1世代幼虫のふ化最盛期予測日

アメダス地点	高松
本年予測日*	4月30日
前年予測日	5月2日

※予測日は4月13日時点での予測日となります。

表2 府中果樹研究所におけるさぬきエンジェルスイートの生育状況

品種	開花始期				
	2023	2024	2025	2026	平年値
さぬきエンジェルスイート	5/1	5/1	5/4	—	5/2

表3 キウイフルーツに登録のある薬剤(主要作物病害虫・雑草防除指針抜粋)

作物名	薬剤名	サブグループ	IRAC コード*
		あるいは 代表的有効成分	
キウイ フルーツ	モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	4A
	トランスフォームフロアブル	スルホキシイミン系	4C
	コルト顆粒水和剤	ピリジン アゾメチン誘導体	9B
	アプロード水和剤	ブプロフェジン	16

※IRACコードとは殺虫剤の作用機構(効き方)を抵抗性管理のために分類し、数字とアルファベットで分かりやすく表示した略号です。同じコード(同じ作用機構)の薬剤を連用すると抵抗性害虫が出現するリスクが高まります。



香川県主要農作物病害虫・雑草防除指針  
[https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichubojyo/byogaichu/sisin/byougaityuu\\_sisin.html](https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichubojyo/byogaichu/sisin/byougaityuu_sisin.html)

・住宅地等に接した地域及び広範囲に防除する場合は、散布する前に付近住民などに周知するとともに、飛散しにくい農薬を使用するようにしましょう。

・農薬散布は、無風又は風が弱いときに行うなど、近隣に影響が少ない天候の日や時間帯を選び、風向き、ノズルの向き等に注意して飛散防止を心がけましょう。

**農薬はラベルをよく読んで使用しましょう**

**病害虫防除所インターネットホームページ**

URL: <https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichuboj/index.html>

